

健全新報

日本連盟障害共済制度の報告書からみる 傷害発生傾向とその分析

この度、平成17年度傷害共済制度における保険金請求状況の報告を受け、傷害の受傷機転と傷病を分析することにより今後の活動における事故を未然に防げるのではないかと考え、特に症例の多かったものについてその分析を試みた。サンプル数は458件である。

まず、受傷機転で最多のものは転倒・つまずき(102件)で、発生状況では斜面歩行や段差が多い。これらの多くはハイクや野営地において不安定な石や地面に足を着地させることにより足関節(足首)に捻挫・骨折を来たしたものと考えられる。また、転倒の際に手や肘を地面に着けたことによる手関節(手首)や腕の骨折もみられる。切創(43件)に関してはやはりナタ・ナイフ・包丁に因るものが多い。以前から日本連盟教育本部コミッシヨナーより「夏の諸活動に向けて」の中で刃物の取り扱いについての注意喚起がなされているが、依然として事故発生が多数見られる。傷病のほとんどが示指(人差し指)の切創であるが、ナタ創傷では薪にはじかれた刃が手の甲に当たり、甲を受傷するケースもある。中にはナタによる中指(細指)の切創や包丁による小指の切創も報告されている。

冬の活動ではスキー・スノーボード(55件)による転

医療に関するご用命は医療チームへ いい仕事
します お問合わせ 奈良県連盟健康安全委員会

倒、衝突が多く、その大半は膝や腰骨(むこうすね)の骨折・捻挫であるが、これは現在のスキーブーツのシエルがふくらはぎの半ばまで覆っているために転倒の際同部に負荷が集中し、受傷するものと考えられる。さらに転倒時に手を着く際、ストックのベルトに手を通してため不自然な形で接地となり、手首や親指が骨折・捻挫に至るものと考えられる。また、スキーの転倒における頸髄損傷による四肢麻痺も一例報告があった。スノーボードでは両足が一枚のボードに固定されているためにバランスを崩した際のコントロールが難しく、一気に転倒に結びつくようである。スキーでもスノーボードでも斜面でかつスピードがあるために、転倒した時には各部の骨や関節に「過度なねじれ」の力が加わるため、受傷した時のダメージが大きい。

アイススケート(20件)では全例が転倒であるが、非常に硬い氷面に体を強打することにより受傷し、下肢よりも手首や腕の骨折が多いのが特徴である。

火傷(12件)については料理中に熱湯を浴びることにより受傷したものが最多である。不安定なかまどや地面に置かれた鍋、フライパンをひっくり返すことが多いようである。転落・落下では舎営において二段ベッドからの転落が5件報告されており、本



【一八年九月号】

人はもちろんのこと、下にいた他者が受傷する事故も起きています。

衝突事故(51件)では風にあおられたテントがぶつかった例があり、この時は同時に複数のスカウトが受傷している。自動車事故(10件)ではやはり重傷度が高く、外傷性クモ膜下出血、肺挫傷、肝挫傷、頭部打撲、全身打撲などが見られる。(受傷後の経過については不明)

その他、今回の事故報告では多種の受傷機転が報告されているが、予期しえぬ不慮の事故以外にも、予防できるはずの事故も数多く見られた。なお、成人指導者の事故発生率が20%を越えていることにも注目したい。

以上、これらに基づいた事故の考察や対策・防止を日本連盟に上程したので、後日の公式な報告が待たれる。

(文責 〇)

14NJで奈良県連盟医療チーム多大な功績

石川県珠洲市で開催された第14回日本ジャンボリーに医療チームの4名が奉仕。3名が中央救護所に、1名が7SC救護所にそれぞれ奉仕した。今回の総受診者数は二五〇〇名に達し、中央救護所受診が七五〇人、9箇所SC救護所合計が一七五〇人(1SC平均二〇〇人)となり24時間体制で診療にあたった。詳細については次回報の記事をお楽しみに。

(文責 〇)